

自転車で公道を走る時は交通法規を守りましょう!



男子スプリント決勝終了後の中川と河端

17th Asian Games INCHEON 2014



アジア大会 男子スプリント決勝の金メダル：中川（左）と銀メダル：河端

	インチョン2014アジア大会.....2
	2014 JAPAN CUP CYCLE ROAD RACE.....6
	UCI 世界選手権ロード/男子ロードレースランキング.....8
	インチョン2014アジアパラ競技大会.....9
	長崎がんばらんば国体 自転車競技会.....10
	2014ツール・ド・フランス さいたまクリテリウム.....12
	第61回全日本プロ選手権自転車競技大会BMX競技.....13
	サイクルサッカー交流試合ジャパンカップ.....14
	2016アジア選手権 日本で開催!.....14
	日本代表選手団.....14
	競技大会結果.....15
	連盟の動き.....17
	日本代表選手団.....18
	日本新記録/今後の大会予定.....19
	アジア大会 ロードレース/MTB/BMX.....20

KEIRIN 

この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。
<http://ringring-keirin.jp>

無限の夢へ、走りだそう。  競輪の補助事業

RINGRING!
プロジェクト

地方自治体が開催する競輪の売上金の一部は、モノづくり、スポーツ、地域社会への貢献など、さまざまな分野の事業に役立てられています。

くわしくはウェブで 
RINGRING! 競輪

17th Asian Games INCHEON 2014



男子ケイリン決勝の脇本(左)と渡邊

Track Races

<短距離>

男子チームスプリント

河端朋之・渡邊一成・中川誠一郎のメンバーで臨む。予選、スタートが決まり3人それぞれがベストタイムを出したが、2位の中国に僅かに及ばず3位通過となる。3・4位決定戦、相手は、予選と同じイランチームである。日本記録を目標にスタートを決めた3人であったが、更新には一步届かず、イランチームに先着し銅メダル獲得。

女子チームスプリント

前田佳乃代・石井貴子で臨む。一走の前田は、スタート良くスピードにのせ2走の石井へ。少し離れ気味に追走するも、そのままゴールまで力走り、日本記録を更新し、3位通過となる。3・4位決定戦、相手は台湾チームである。一走の前田はスタートで失敗し出遅れる。2走の石井もスピードに乗りきれず、台湾チームに先着され、惜しくも4位決定となる。

男子スプリント

出場選手は、中川、河端である。予選200mタイムトライアルでは、中川が9秒942の大会新記録で1位通過。河端は10秒065で3位通過。両選手ともに、1/16F、1/8F、1/4Fと格下相手に危なげなく勝ち進み1/2Fへ。中川の相手は中国選手で、ここも圧勝し決勝進出を決める。河端の相手は、アジア選手権覇者のマレーシアの選手となったが、2本とも積極的に先行して逃げ切り決勝へ進む。決勝は、日本人同士の戦いとなる。1本目、インスタート中川、スタート直後から積極的に先行態勢をとり、最終バックからダッシュ。河端は捲りにいくが、中川のスピードが良く、逃げ切りで中川が先勝する。2本目、インスタートの河端、残り1周から徐々にスピードを上げうまく先行するも、中川最終バックから一気にダッシュし、河端をゴール前でとらえて2本先取し、金メダルを獲得する。河端は、銀メダルとなる。

女子スプリント

出場選手は、前田、石井である。予選200mタイムトライアルでは、前田11秒380で6位、石井11秒615で7位通過となる。1/4Fの石井の対戦相手は、ロンドンオリンピック銅メダリストの香港選手である。石井は、1本目



銅メダルの男子チームスプリント



予選で日本新を出したが4位に終わった女子チームスプリント



女子スプリント5～8位決定戦の小林(中)と前田



女子ケイリン7～12位決定戦の石井(左)と前田

2本目共に積極的に前に出て先行態勢に持ち込んだが、ラスト半周からあっさりと捲られてしまい、5-8位決定戦へ。前田の対戦相手は、予選3位通過の中国選手である。前田は1本目2本目共に、積極的に先行しうまいレース運びであったが、ゴール手前でとらえられてしまい5-8位決定戦へ。5-8

位決定戦、日本人2人、韓国2人の4人での対戦である。スタートから前に出て、ペースを作る石井。残り1周、3番手にいた前田は、猛ダッシュして先行するが、2番手についた韓国選手が残り半周から捲りをうつ。それに追走する石井とゴール勝負となったが、僅かに届かず、石井6位、前田7位が確定した。

男子ケイリン

出場選手は、渡邊一成、脇本雄太である。1回戦、渡邊は、力を温存する余裕のゴール。脇本は、負傷後で体調が心配されたが、不安を払拭する豪快なレースで、両選手共に準決勝へ進む。準決勝戦、渡邊は、残り1周半周から一気に先頭にたち、相手を寄せ付けず力強い走りで1着ゴール。脇本は、相手選手の動きをよく観察し、落ち着いたレースで、残り半周手前3番手から捲って楽々1着ゴール。両選手共に決勝戦へ進む。決勝戦、残り1周半で脇本が先行態勢、2番手に渡邊で、盤石なレース展開。残り半周から、マレーシアの選手が猛烈に捲り上げてくる。一瞬気付くのが遅れる渡邊は、脇本の後位からダッシュし、両者はゴール手前までデットヒートとなる。外からイランの選手が伸びて1着となり、渡邊は2着で銀メダル獲得となる。

女子ケイリン

出場選手は、前田佳乃代、石井貴子である。1回戦、前田は、残り1周過ぎ絶好の2番手からうまく捲るが、後続の選手に捲られ4着ゴールで、7-12位決定戦へ。石井は、スタート後中国選手の後位となり、絶好の展開と思えたが、他の選手の動きに惑わされ本来の力が発揮できず5着となり、7-12位決定戦へ。7-12位決定戦、スタートで1番手前田その後ろに石井と続き、残り1周から後方のインド選手がダッシュしてきたが、前田がうまく合わせて先行し、それに続いた石井がゴール前とらえて、石井7位、前田8位が確定した。

現地でのコンディショニング

昼夜の気温差があり衣類での調節を促し、日中は暑くなるため水分補給に留意した。空気が乾燥しており、目の痒み、くしゃみなど花粉症のような症状がでたので、うがいと目の洗浄につとめさせた。

競技の総括と反省

男子短距離においては、この大会を見据えて合宿等、強化した成果が現れた。更にリオ・オリンピックに向けて、計画的に強化を進めていきたい。また、女子においては、アジアのレベルが世界トップであるため、少しでもアジアで活躍できる選手を育成し、もっと経験をためて強化していきたい。

(坂本 勉)

1回戦で日本新を樹立し銅メダルを獲得した男子チームパーシュート



女子オムニアムの塚越



1回戦・3～4位決定戦と日本新を更新し続けたが4位に終わった女子チームパーシュート



最終のポイントレースで大逆転した男子オムニアム金メダルの橋本(中央)

<中距離>

9月20日TP(M)予選

予選は窪木、近谷、橋本、一丸メンバーでスタート。練習通り1kmを1分07秒195で入ったが、中盤にかけてペースが上がらず、4分12秒711の4位で翌日の1stラウンドに進む。各選手とも緊張から慎重になり過ぎてしまい、ペースが上がりがらなかった。練習の感じでは、屋外競技場でも日本記録は更新出来る手応えはあったので、ペースの見直しと自信を持って望むようアドバイスする。

9月21日TP(M) 1stラウンド、TP(W)予選、TP(M)決勝、3～4位決定戦

最初のTP男子1stラウンドは勝ち上がれば決勝進出、負けた場合はタイムで3～4位に回る。メンバーは予選と変更無しで行く。昨日1本走った事でだいぶリラックスして望め、予選タイムを大幅に更新する4分08秒470の日本新記録で走ったが、対戦相手の中国が4分06秒626とタイムと大きく伸ばしてきたため、惜しくも3～4位決定戦に回る。この日本のタイムはもう一組の勝者、韓国のタイムを上回って

ただけに、予選の結果が悔やまれた。続くカザフとの3～4位決定戦は危なげなく4分08秒474で制し、3位となる。室内ではなく屋外競技場での記録更新は、チームにとって自信となった。

続いて女子は、中国が頭ひとつ抜きんでいるが2～5位は均衡しており、練習の力を発揮出来れば十分メダルのチャンスはある。予選メンバーは塚越、上野、加瀬、中村で行く。男子の好記録を意識し過ぎてオーバーペースで入ってしまい、後半大失速の4分47秒970で、最下位5位と悔やまれる予選

結果となった。

9月22日 TP(W) 1st ラウンド

練習通りの走りが出来れば4分40秒は切れるはずなので、落ちついて走るようアドバイスを。結果、見違える走りで終始良いペースで、4分39秒723日本記録、この後の3～4位に進出する。男子同様1stラウンドのタイムは全体で2位のタイムだけに、予選結果が悔やまれた。3～4位決定戦はタイム的にアドバンテージがあるチャイニーズ台北だが、集中力を切らないようにする。課題のスタートも上手くいき、1stラウンドの記録を更新する4分37秒897で走ったが、対戦相手のチャイニーズ台北が大幅にタイムを更新し僅差の4位に終わる。相手のメダルへの執念、気迫に負ける結果となった。短いインターバル間に、的確なアドバイスが出来なかった事が悔やまれる。

9月22・23日 OM (M)橋本

この6月にOMはルール変更があり、初日はスクラッチ、個人パーシュート、エリミネーション、2日目は1kmタイムトライアル、フライングラップ、ポイントレースの順番になり、最終種目ポイントレースの得点がそのまま反映される内容に変更された。第一種目スクラッチは2人の逃げを容認してしまったが、落ち着いて集団の3位に入り5位となる。続くIPは最初からペースが上がらず、ベストからも大きく落として9位、初日最後のエリミネーションも11位と、初日9位で折り返す。

2日目TT、FLは共に5位と盛り返し、ポイントレースにつなげる事が出来た。新ルールではポイントレースのポイントがそのまま得点に反映されるので、展開次第では十分逆転も可能だ(54点差)。予想通り上位陣が牽制する中、LAP(20点)を重ね加点して行く。最後は接戦を力で制し、韓国の英雄CHO選手に2点差の234点で大逆転優勝!まさに新ルールを活かした結果となった。

9月24・25日 OM (W)塚越

最初の種目スクラッチはスプリント勝負となり、自ら仕掛け4位。続く個人パーシュートは、後半失速し5位。最後のエリミネーションは終盤粘り2位で、トップと10点差の4位で初日を折り返した。

2日目は得意のタイム系からのスタート。ここはしっかり上位に入り、差を縮めておきたい。500mタイムトラ

イアルは僅差で3位。フライングラップは助走でスピードに乗せられず4位。20点差の3位でメダルをかけた最終種目ポイントレースをスタート。自転車経験が少ない塚越にとり、真価が問われるポイントレースとなる。重要な場面で無駄足が多く、加点出来ずにひとつ順位を落とし4位で終えた。優勝はポイントで突き放したHSIAO(チャイニーズ台北)。メダル圏内だけに、最後は課題が残る結果となった。

2020年に向けた強化が形となったアジア大会だったが、課題も残る大会でもあった。引き続きアジア、世界との差が縮まるよう、選手一丸となって強化していきたい。(飯島 誠)

【競技結果】

2014 仁川アジア競技大会 (大韓民国・仁川)

[トラック-ス] 2014/9/20-25

男子スプリント

- 1 中川誠一郎 JPCA JPCU 熊本
- 2 河端 朋之 JPCA JPCU 岡山
- 3 BAO Saifei CHN



男子ケリソ

- 1 DANESHVARKHOURRAM Mohammad IRI
- 2 渡邊 一成 JPCA JPCU 福島
- 3 NG Josiah Onn Lam MAS



- 5 脇本 雄太 JPCA JPCU 福井

男子チームスプリント

- 1 韓国 SON/IM/KANG 59.616
- 2 中国 XU/HU/BAO 59.960
- 3 日本 河端・中川・渡邊 1:00.436



男子ホム7ム

- 1 橋本 英也 岐阜 鹿屋体育大学 234p
SH:5, IP:9(4:44.685), EL:11,
TT:5(1:07.029), FL:5(18.670), PR:1
- 2 CHO Hosung KOR 232p
- 3 CHEUNG King Lok HKG 229p



男子チームパーシュート

- 1 中国 SHI/YUAN/QIN/LIU 4:07.936
- 2 韓国 IM/PARK Sa/PARK Se/PARK K 4:12.269
- 3 日本 一丸・窪木・橋本・近谷 4:08.474



女子スプリント

- 1 LEE Wai Sze HKG
- 2 ZHONG Tianshi CHN
- 3 LIN Junhong CHN
- 6 石井 貴子 JPCA JPCU 千葉
- 7 前田佳代乃 京都

女子ケリソ

- 1 LEE Wai Sze HKG
- 2 MUSTAPA Fatehah Binti MAS
- 3 ZHONG Tianshi CHN
- 7 石井 貴子 JPCA JPCU 千葉
- 8 前田佳代乃 京都

女子チームスプリント

- 1 中国 ZHONG/GONG 43.774
- 2 韓国 LEE/KIM 44.876
- 3 中国 HSIANG/HUANG 45.389
- 4 日本 前田・石井 45.926

女子ホム7ム

- 1 HSIAO Mei Yu TPE 227p
- 2 LUO Xiaoling CHN 213p
- 3 NA Ahreum KOR 204p
- 4 塚越さくら 鹿児島 鹿屋体大学院 184p
SH:4, IP:5(3:52.368), EL:2,
TT:3(36.941), FL:4(20.052), PR:6

女子チームパーシュート

- 1 中国 ZHAO/HUANG/JIANG/JING 4:28.469
- 2 韓国 LEE/SON/KIM/NA 追抜かれ負
- 3 中国 HSIANG/HUANG/TSENG/I 4:37.148
- 4 日本 中村・上野・加瀬・塚越 4:37.897



2014 JAPAN CUP CYCLE ROAD RACE

ネイサン・ハースが3年ぶり、2回目の優勝

KEIRIN 00
この大会は競輪の補助金を受けて実施されました



ジャパンカップのゴールスプリント。左端が winner の HAAS

降水確率0%、抜けるような青空、上着が不要なほどの暖かさ、2014ジャパンカップは雨に祟られた昨年とは一転し、絶好のコンディションの中でその舞台を迎えた。

16チーム79名の選手が、本大会名誉スターター佐藤栄一宇都宮市長の号砲を合図に、定刻10時にスタート。古賀志林道の下りで最初に飛び出したのは内間康平（ブリヂストン）で、レイランド（LL、4km）のポイントでは、メイン集団に10秒の差を付ける。内間は昨年もファーストアタックを決めており、昨年はそのアタックをきっかけに11名の逃げ集団が形成されたが、今年はその再現とはならなかった。増田成幸、堀孝明、阿部崇之の地元宇都宮ブリッツェン勢とトマルバ（ブリヂストン）の4名が追走し、内間と合流して5名の逃げ集団が一旦形成されるが、メ

イン集団はこの逃げを容認せずレースは振り出しに戻る。

新たにアタックを試みる選手が数名見られるも、メイン集団はそれを許さず、しばらくの間やや落ち着かない様相でレースは進む。だが池（13km）のポイントからの上りで、阿部、山本元喜（NIPPO）、ホセ・ヴィンセンテ（チーム右京）、ダレン・ラブソーン（ドラパック）の4名が抜け出すと集団はこれを容認し、この形でレースは落ち着きを見せる。1周目を終えた時点で、先頭4名とメイン集団の差は1分10秒。ラップタイムは21分を切る20分49秒で、この数字が1周目に激しい主導権争いが繰り広げられていたことを物語っていた。

メイン集団はガーミン、ティンコフ・サクソ、スカイらUCIプロツアーチーム勢にコントロールされ、先頭4名との差は徐々に広がっていく。2周目の

田野（7km）のポイントでその差は3分24秒。サイクリングとも思えるようなメイン集団のスローペース（2周目のメイン集団のラップタイムは27分52秒！）に焦れたのか、日本ナショナルチームの佐野淳哉と内野直也が、集団から抜け出して追走を開始する。だがやや遅きに失したこの追走劇は、3周目の中坪（8km）付近での、佐野のパンクアクシデントにより終わりを告げた。

先頭集団が4名と小さいこともあり、メイン集団は完全に静観の構えだ。3周目の山岳賞は、地元ファンの声援を受けて阿部が獲得。山岳賞争いによる先頭集団のペースアップも手伝って、この周回の田野（7km）のポイントでは、先頭とメイン集団の差は6分30秒まで広がる。先頭とメイン集団との差がここまで広がるのは、低気温と雨中でのレースとなりスローペースと



逃げ続けた先頭4名



メイン集団

なった'00年以来のことであるが、今回のメイン集団の顔ぶれと好コンディションを考えれば、これは十分に容認できる差でしかないだろう。実際ここから集団は、徐々に先頭との差を詰めていく展開となる。

レースが動いたのは、3回目の山岳賞が掛かる9周目だった(2回目の山岳賞はヴィンセンテ)。山本が単独でアタックして、後続3名に8秒の差を付け山岳賞を獲得するが、そこで力尽きて先頭集団からドロップする。だがメイン集団は、山岳賞を争った先頭集団よりも更に早いペースで古賀志林道を駆け上り、9周目に入った時点で2分19秒あった差は、40秒ほど縮まり1分37秒。9周目を終えた時点で先頭3名とメイン集団の差は48秒と、遂にその差が1分を切った。

メイン集団はなおも追撃の手を緩めない。10周目の古賀志林道の上りで先頭3名から阿部が脱落。逆にメイン集団からヤン・ポラン(ランプレ)が飛び出して先頭2名に合流し、メイン集団に11秒の差を付けて山頂を獲る。再び3名となった先頭集団は、そのまま5kmほどメイン集団との10秒差をキープするが、中坪(8km)のポイント付近でラブソーンが脱落し、萩(9km)のポイント手前でメイン集団は残る2名を吸収した。残り1周の時点で逃げ選手がいない、大きな集団のままというのは近年には無い展開だ。

勝負処となった古賀志林道の上りで飛び出したのはモレノ・モゼール(キャンソンドール)で、10名ほどの後続集団に7秒の差を付けて山頂を通過する。山頂からの下りでマヌエーレ・ポアロ(ティンコフ・サクソ)が追走集団から飛び出し単独で追走、その後ろに10名

の集団が続く。県道(6km)のポイントで後続に14秒の差をつけて、モゼールはひたすら逃げる。

懸命に逃げるモゼールであったが、勢いは追走集団の方であった。田野(7km)のポイントを過ぎて10名の集団は、一気にペースアップを図りまずポアロを吸収。差が10秒を切ってもモゼールの抵抗は続くが、ラスト1kmで遂に吸収され、勝負の行方はゴールスプリントへ。ポランとヴァレリオ・コンティのランプレ勢2名の仕掛けをかわしてゴール勝負を制したのは、前日のクリテリウムでも1回目のスプリント賞を獲得したネイサン・ハース(ガーミン)であった。2位はエドヴァルド・ボアソン・ハーゲン(スカイ)、3位はグレガ・ボーレ(ニッポ)。日本人の最上位は別府史之(トレック)の14位であった。

【クリテリウムはチームスカイが制す】

ジャパンカップの前日土曜日開催されたクリテリウムレースは、クリストファー・サットン(スカイ)が、2位ステイヤー・ヴォン・ホフ(ガーミン)に対し写真判定、わずか0.016秒差で優勝した。途中3回のスプリント賞は、1回目は翌日の本戦を制するハース、2回目と3回目はマルコ・マルカト(キャンソンドール)が獲得した。

'10年に初開催となった宇都宮市大通りでのクリテリウムも、今回で5回目の開催となり、すっかりおなじみのイベントとなった感がある。今年は例年より1時間早い午後2時に道路を封鎖し、往年の選手によるレジェンドクリテリウムを始めとして様々なイベントを行い、沿道に集まったファンを大いに賑わせた。しかし、土曜日の午後バス通りでもある宇都宮市街目抜き通りを封鎖してレースを開催することは、各

方面に多大なる影響を及ぼしていることは想像に難くない。末筆ではあるがジャパンカップの開催にあたり、地元住民の方々、並びに関係各位のご理解とご協力を賜ったことに深く感謝して、このレポートを終えたい。(村田 隆宣)

【競技結果】

ジャパンカップ

(2014/10/18-19 栃木・宇都宮)

ジャパンカップ (151.3km)

- | | | | |
|---|----------------------|-----|---------|
| 1 | HAAS Nathan | GRS | 4:06:48 |
| 2 | BOASSON HAGEN Edvald | SKY | 4:06:48 |
| 3 | BOLE Grega | VFN | 4:06:48 |



- | | | | |
|---|-------------------------------|-----|---------|
| 4 | ANDERSEN Michael Valgren | TCS | 4:06:48 |
| 5 | ARREDONDO MORENO Julian David | TFR | 4:06:48 |
| 6 | CONTI, Valerio | LAM | 4:06:48 |

ジャパンカップクリテリウム (35.65km)

- | | | | |
|---|--------------------------|-----|-------|
| 1 | SUTTON Christopher | SKY | 41:32 |
| 2 | VON HOFF Steele | GRS | 41:32 |
| 3 | SWIFT Ben | SKY | 41:32 |
| 4 | BOLE Grega | VFN | 41:32 |
| 5 | SULZBERGER Wesley | DPC | 41:32 |
| 6 | ANDERSEN Michael Valgren | TCS | 41:32 |

オープン男子 (80.8km)

- | | | | |
|---|--------------|-----|---------|
| 1 | DESRIAC Loic | 愛知 | 2:09:10 |
| 2 | 紺野 元汰 | 神奈川 | 2:09:35 |
| 3 | 中村龍太郎 | 千葉 | 2:09:35 |
| 4 | 清水 太己 | 東京 | 2:09:35 |
| 5 | 武末 真和 | 千葉 | 2:09:35 |
| 6 | 才田 直人 | 東京 | 2:09:35 |

オープン女子 (42.3km)

- | | | | |
|---|-------|-----|---------|
| 1 | 西 加南子 | 千葉 | 1:19:11 |
| 2 | 金子 広美 | 三重 | 1:19:15 |
| 3 | 針谷千紗子 | 栃木 | 1:19:31 |
| 4 | 智野 真央 | 東京 | 1:19:56 |
| 5 | 米田 和美 | 千葉 | 1:19:56 |
| 6 | 大堀 博美 | 神奈川 | 1:20:05 |



クリテリウム。中央のskyが優勝のSUTTON



エキシビジョンのGirl's Keirin

UCI 世界選手権大会 - ロードレース

男子エリート完走は清水のみ



世界選手権ロードレース最終日はエリートの個人ロードレース。例年に比べ山岳難易度が低くスピードタイプの選手の活躍が予測される中、日本代表チームは新城幸也をエースとして、位置取りの得意な土井雪広と登坂スピードのある清水都貴の3名で臨む。

肌寒く雨が降り出す中レースがスタートし、直後それほど警戒されていない4名が先行する中、一時は14分まで開いたタイム差も中盤に差し掛かるとどの強豪国よりも先にポーランドが集団をコントロールし徐々にタイム差を縮め始める。

やがてオランダ、次いでイタリアの本格的ペースアップにより集団は小さくなり始めたところでラスト4周に入り、メイン集団では土井と清水のアシストを得て前方へ上がった新城が好位置につける。しかし雨と晴れの変化を繰り返す気象に体調を崩した新城は絞られた60人ほどの集団から脱落しラスト2周を残しリタイヤすることとなった。

清水は集団から遅れてからもレースを走り続け、初出場の世界選手権ロードを20分遅れの94位でゴールした。コースの適性や実力を考え新城に十分チャンスがある世界選手権ではあったが、今回は残念な結果に終わった。(浅田 顕)

【競技結果】

UCI 世界選手権大会-ロードレース (2014/9/20-28 スイス)

- ジュニア女子タイムトライアル (13.9km)
- 1 STEWART Macey AUS 20:08.39
 - 2 MATHIESEN Pernille DEN 20:19.18
 - 3 HULL Anna-Leeza AUS 20:21.70
 - 19 坂口 聖香 兵庫 日本体大 21:17.20
 - 39 梶原 悠未 埼玉 筑波大坂戸 21:58.80

- ジュニア男子タイムトライアル (29.5km)
- 1 KAMNA Lennard GER 36:13.49
 - 2 COSTA Adrien USA 36:58.15
 - 3 STORER Michael AUS 37:11.60
 - 56 草場 啓吾 京都 北桑田高 40:38.47

- U-23女子タイムトライアル (29.5km)
- 1 BRENNAUER Lisa GER 38:48.16
 - 2 SOLOVEY Anna UKR 39:06.84
 - 3 STEVENS Evelyn USA 39:09.41
 - 14 與那嶺恵理 茨城 サクパノクFX 40:54.64
 - 18 萩原麻由子 群馬 ウィグルホンダ* 41:18.94

- ジュニア女子ロードレース (72.8km)
- 1 DIDERIKSEN Amalie DEN 2:02:59
 - 2 BERTIZZOLO Sofia ITA 2:02:59
 - 3 SKALNIAK Agnieszka POL 2:02:59
 - 13 坂口 聖香 兵庫 日本体育大 2:02:59
 - 18 梶原 悠未 埼玉 筑波大坂戸 2:02:59

- 男子ジュニアロードレース (127.4km)
- 1 BOKELOH Jonas GER 3:07:00
 - 2 KULIKOVSKIY Alexandr RUS 3:07:00
 - 3 LENDERINK Peter NED 3:07:00
 - 17 石上 優大 神奈川 横浜高校 3:07:00
 - 79 草場 啓吾 京都 北桑田高校 3:15:22
 - 中村 圭佑 東京 昭和第一学園 DNF
 - 孫崎 大樹 京都 北桑田高校 DNF

- 女子U-23ロードレース (127.4km)
- 1 FERRAND PREVOT Pauline FRA 3:29:21
 - 2 BRENNAUER Lisa GER 3:29:21
 - 3 JOHANSSON Emma SWE 3:29:21
 - 22 與那嶺恵理 茨城 サクパノクFX 3:30:02
 - 52 萩原麻由子 群馬 ウィグルホンダ* 3:35:12

- 男子U-23ロードレース (254.8km)
- 1 KWIATKOWSKI Michal POL 6:29:07
 - 2 GERRANS Simon AUS 6:29:08
 - 3 VALVERDE BELMONTE Alejandro ESP 6:29:08
 - 94 清水 都貴 JPCA BS アンカー 6:49:29
 - 新城 幸也 チームヨーロッパカー DNF
 - 土井 雪広 山形 チーム右京 DNF

男子エリート・ロードレースランキング 2013/10-2014/09

順位	名前	所属	Japan Cup	ツール・ド・沖縄	TOJ 総合	TOJ 2 St	熊野 総合	熊野 3 St	アジア選 TT	アジア選 ロード	全日本 TT	全日本 ロード	生口島 ロード	T北海道 総合	T北海道 1 St	T北海道 2 St	全日本 実業団	世界選 TT	アジア大会 TT	世界選 ロード	アジア大会 ロード	合計	
			2013 10/20	2013 11/10	2014 5/18-25	2014 5/20	2014 5/29-6/1	2014 6/1	2014 5/29	2014 6/1	2014 6/27	2014 6/29	2014 9/07	2014 9/13-15	2014 9/13-15	2014 9/13-15	2014 9/21	2014 9/24	2014 9/27	2014 9/28	2014 9/29		
1	佐野 淳哉	栃木									11	80			3							94p	
2	井上 和郎	福井										56										56p	
3	宮澤 崇史	JPCA				2						30										15	47p
4	初山 翔	神奈川		40																			40p
5	山本 元喜	奈良									6	32											38p
6	内間 康平	沖縄												16	5		10						31p
7	別府 史之	JPCA									16	7							7				30p
8	西谷 泰治	愛知	9			4							10										28p
9	入部正太郎	奈良																7					27p
10	清水 都貴	JPCA																					24p
11	土井 雪広	山形																					20p
12	窪木 一茂	和歌山													12		5						17p
13	畑中 勇介	東京											12						4				16p
14	増田 成幸	栃木			6																		14p
15	中根 英登	愛知						12															12p
16	菅久原 奨	沖縄		8																			8p
17	高岡 亮寛	東京		6																			6p
17	早川 朋宏	愛知										6											6p
19	阿部 嵩之	北海道																					5p
19	吉田 隼人	奈良						2															5p
21	岡 篤志	茨城											4										4p
22	大場政登志	茨城																					2p
22	寺崎 武郎	福井																			2		2p

インチョン 2014 アジアパラ競技大会

日本選手団 メダルラッシュ!

10月19日から24日、アジア大会終了後の大韓民国・仁川でアジアパラ競技大会が行われ、自転車競技はトラックレースとロードレースが開催された。

天候の関係で、トラックレースのスケジュールが若干変更される中、男・女 B 1km タイムトライアルで、鹿沼／沼部ペアが金メダルを獲得した他、男子 B 個人パーシュートで大城／宮越ペアが銀メダル、男子 C4-5 個人パーシュートで石井が銀メダルを獲得した。なお、女子個人パーシュートは参加者が少なくオープンレースとなったが、Bで鹿沼／沼部ペアが優勝、C1-3で藤井が3位に入った。

ロードタイムトライアルでは、男・女 B の鹿沼／沼部ペアと男子 H4-5 の奥村が金メダルを獲得。ロードレースでは、男・女 B の大城／宮越ペアと、男子 H4 の奥村が銀メダルを獲得、メダルラッシュの日本選手団であった。



鹿沼由理恵 / 沼部早紀子 (パイロット)



男子 H4 ロードのゴールスプリント



男・女 B ロードレースのメイン集団

【競技結果】

インチョン 2014 アジアパラ競技大会
(2014/10/19-24 大韓民国・仁川)

<トラックレース>

男・女 B 1km タイムトライアル

- 1 鹿沼由理恵 / 沼部早紀子 W 1:14.914
- 2 AHMAD BAJURI Aiman Asyraf M MAS 1:05.711
- 3 KIM Jong-Giu M KOR 1:05.795



男子 C1-5 1km タイムトライアル

- 1 LI Zhangyu MC1 CHN 1:14.141
- 2 LIU Xinyang MC5 CHN 1:08.039
- 3 XIE Hao MC2 CHN 1:16.925
- 6 石井 雅史 MC4 JPN 1:12.596

女子 C1-5 500m タイムトライアル

- 1 SONG Zhenling WC2 CHN 44.148
- 2 GUO Qing WC5 CHN 41.513
- 3 DONG Jingping WC4 CHN 43.822
- 5 藤井 美穂 WC2 JPN 58.942

以上3クラスはタイムに規定係数をかけて順位決定*

男子 B 個人パーシュート

- 1 KIM Jong-Giu KOR 4:40.359
- 2 大城竜之 / 宮越孝治 JPN 4:53.777
- 3 AHMAD BAJURI Aiman Asyraf MAS 4:58.274



男子 C4-5 個人パーシュート

- 1 LIU Xinyang CHN 4:47.999
- 2 石井 雅史 JPN 5:03.311
- 3 TURANO Mohd Najib MAS 5:24.342



<ロードレース>

男・女 B ロードタイムトライアル (24.3km)

- 1 鹿沼由理恵 / 沼部早紀子 W 33:56.45
- 2 KIM Jong-Giu M KOR 29:53.97
- 3 YOU Chung-Sub M KOR 31:24.13



男・女 C1-5 ロードタイムトライアル (16.2km)

- 1 LI Zhangyu MC1 CHN 23:22.31
 - 2 LIU Xinyang MC5 CHN 20:31.50
 - 3 LI Jieli WC1 CHN 28:15.94
 - 15 藤井 美穂 WC2 JPN 36:54.08
- 以上2クラスはタイムに規定係数をかけて順位決定*

男子 H4-5 ロードタイムトライアル (16.2km)

- 1 奥村 直彦 H4 25:39.39
- 2 LEE In-Jea H4 KOR 25:52.54
- 3 NGU Michael King Teng H4 SIN 34:20.74



男・女 B ロードレース (97.2 km)

- 1 KIM Jong-Giu M KOR 2:18:35
- 2 大城竜之 / 宮越孝治 M 2:24:12
- 3 WAHAB Mohd Khairul Hazwan M MAS 2:24:12



- 6 鹿沼由理恵 / 沼部早紀子 W 2:27:44

女子 C1-5 ロードレース (48.6km)

- 1 GUO Qing CHN 1:38:24
- 2 DONG Jingping CHN 1:38:24
- 3 SONG Zhenling CHN 1:41:30
- 5 藤井 美穂 JPN -1LAP

男子 H4 ロードレース (48.6km)

- 1 LEE In-Jea KOR 1:31:08
- 2 奥村 直彦 JPN 1:31:08
- 3 NGU Michael King Teng SIN 1:47:44



*係数：UCI 規則 16.1.005 による

長崎がんばらば国体 自転車競技会

次回開催地の和歌山が総合優勝!

長崎がんばらば国体の自転車競技会が、壱岐島(ロードレース)と佐世保競輪場(トラックレース)で、10月13日~17日に行われる予定であったが、超大型台風19号の影響で13日のロードレースは中止、14日のトラックレースも中止され、トラックレースは4日間から3日間にスケジュールを短縮して開催された。

その中、岩手国体から開催予定の女子種目も、エキシビジョンとしてケイリンとスクラッチの2種目が行われた。

また、国体10年表彰もトラック初日の表彰式の際行われ、3名の選手が表彰を受けた。

総合優勝の天皇杯は、来年の開催地である和歌山県が獲得した。



エキシビジョンの女子スクラッチ

少年ポイントレース、トップが優勝の沢田



成年ポイントレース、左端のGUMMAが優勝の倉林



チームパーシュート優勝の岐阜



チームスプリント優勝の岡山

成年スプリント決勝、左が優勝の橋本瑠偉



少年スプリント決勝、左が優勝の梶原



成年ケイリン決勝、左端が優勝の森本



少年ケイリン決勝、前から2番目が優勝の阿部

【競技結果】

第69回 国民体育大会 自転車競技会
(2014/10/13-17 長崎・壱岐 / 佐世保)

成年スプリント

- 1 橋本 瑠偉 佐 賀
- 2 橋本 凌甫 和歌山
- 3 坂井 洋 栃 木

少年スプリント

- 1 梶原 大地 福 岡
- 2 布居 翼 和歌山
- 3 山根 将太 鳥 取

成年1kmタイムトライアル

- | | |
|-------------|----------|
| 1 相馬 義宗 岐 阜 | 1:05.852 |
| 2 深瀬 泰我 静 岡 | 1:06.052 |
| 3 松本 貴治 愛 媛 | 1:06.192 |

少年1kmタイムトライアル

- | | |
|-------------|----------|
| 1 坂本 紘規 青 森 | 1:08.289 |
| 2 佐々木 徹 山 形 | 1:08.433 |
| 3 栗本 武典 千 葉 | 1:08.733 |

成年ケイリン

- 1 森本 尊也 高 知
- 2 宮本 隼輔 山 口
- 3 中野 雄喜 京 都

少年ケイリン

- 1 阿部 将大 大 分
- 2 南 潤 和歌山
- 3 徳田 匠 京 都

成年4km速度競走

- | | |
|-------------|---------|
| 1 小林 泰正 群 馬 | 4:44.89 |
| 2 近谷 涼 富 山 | |
| 3 高士 拓也 三 重 | |

少年4km速度競走

- | | |
|--------------|---------|
| 1 水谷 翔 鹿 児 島 | 4:48.81 |
| 2 兼本 将太 熊 本 | |
| 3 草場 啓吾 京 都 | |

成年ポイントレース

- | | |
|-------------|-----|
| 1 倉林 巧和 群 馬 | 27p |
| 2 窪木 一茂 和歌山 | 23p |
| 3 橋本 英也 岐 阜 | 19p |

少年ポイントレース

- | | |
|-------------|-----|
| 1 沢田桂太郎 宮 城 | 20p |
| 2 高橋 優斗 大 分 | 13p |
| 3 孫崎 大樹 京 都 | 10p |

チームスプリント

- | | |
|----------------|----------|
| 1 岡 山 野上・奥村・岡野 | 1:16.993 |
| 2 鳥 取 八田・佐伯・山根 | 1:17.066 |
| 3 和歌山 橋本・南・布居翼 | 1:17.556 |

チームシュート

- | | |
|-------------------|----------|
| 1 岐阜 相馬・矢野・橋本・渡邊 | 4:22.437 |
| 2 和歌山 森口・岡本・窪木・和田 | 4:22.966 |
| 3 群馬 倉林・小林・石井・齊藤 | 4:25.144 |

天皇杯 総合成績

- | | | |
|--------|-------|-------|
| 1 和歌山県 | 2 岡山県 | 3 岐阜県 |
|--------|-------|-------|



国体10年表彰

- | |
|-----------|
| 大村 慶二 神奈川 |
| 穂苅 大地 新 潟 |
| 村出真一朗 鳥 取 |

※台風のため、ロードレースは中止

2014 ツール・ド・フランス さいたまクリテリウム

Marcel Kittelが優勝!



昨年初開催となった本大会は、今年には2014 ツール・ド・フランスさいたまクリテリウムと名称を変え、10月25日(土)に開催された。会場は昨年と同じく、さいたま新都心駅周辺特設コースであるが、昨年バックヤードに使用された場所が病院の新築工事現場になったため、コースレイアウトが変更されて、1周の距離も2.7kmから3.1kmへと延長された。

中でも注目されたのは、さいたまスーパーアリーナ1階のコミュニティアリーナに設定された、おそらく本邦初(そして世界的にも珍しい)の屋内ロードコースであろう。コースの片側に各チームのピットと特設ステージを、反対側に観客席を配置したレイアウトも絶妙。選手が通過するたびに、大歓声と自転車やコミセル車両の走行音が会場内に反響して、臨場感は抜群だ。走路面にはゴム製のシートが敷かれ、走路幅はゲートの制限もあり5.5mと狭く、コース両脇に並ぶ鉄製フェンスの足は若干危険性を感じさせるが、今回出走の選手であれば、ここを走ることには問題はないであろう。

2014 ツール・ド・フランスの覇者＝マイヨジョーヌのヴィンチェンツォ・ニーバリ(アスタナ)は、ツールで山岳賞＝マイヨブラン・アポワルージュのラファル・マイカ(ティンコフ・サクソ)、今年限りで引退を表明した宮澤

崇史(NIPPO)、同じく西谷泰治(愛三工業)の4名で、5周目から10周目まで逃げて会場を沸かせた。さらに最終周回のゴール前でも逃げを見せて、優勝こそ果たせなかったもののポイント賞を獲得した。優勝はゴールスプリントを制したマルセル・キッテル(ジャイアント・シマノ)。2位にツールでポイント賞＝マイヨペールのペーター・サガン(キャノンデール)が入り、昨年に続き最優秀新人賞も獲得した。山岳賞は途中ニーバリと共に逃げたマイカが獲得した。

会場周辺では昨年同様、様々なステージイベントの開催や自転車関連産業のブース出展があり、多くの来場者で賑わっていた。また日仏の食の祭典「さいたまるしえ」の開催は、日仏の友好と相互理解に貢献したことだろう。単なるレース開催に留まらない、意義のあるこのイベントが、来年以降も続けて開催されることを期待して止まない。(村田 隆宣)

【競技結果】

2014 ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム (2014/10/25 埼玉・さいたま)

クリテリウム (60.0km)		
1	Marcel KITTEL	GIA 1:24:39
2	Peter SAGAN	CAN 1:24:39
3	Alexander KRISTOFF	KAT 1:24:39
4	Arnaud DEMARE	FDJ 1:24:39
5	新城 幸也	TDF 1:24:39
6	Romain BARDET	ALM 1:24:39

Meitan SuperAthlete

株式会社梅丹本舗
大阪府摂津市学園町 1-1-26
072-637-5677 (代表)
<http://www.meitanhonpo.jp/>



梅丹本舗は日本自転車競技連盟のオフィシャルスポンサーです。自転車競技ナショナルチームを応援しています。

アスリートのための糖質補給



効率のよい
エネルギー変換に



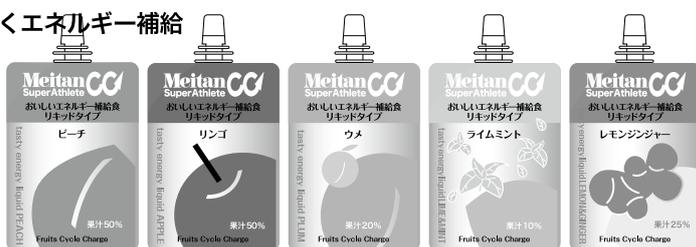
脚つり防止に



汗をかくすべての方に



おいしくエネルギー補給



第 61 回全日本プロ選手権自転車競技大会 BMX 競技



この大会は競輪の補助金を受けて実施されました

古性が連覇を重ねる!



決勝の古性(先頭)



アルティメットマッチ

10月4日、静岡県伊豆市の日本サイクルスポーツセンターで、第61回全日本プロ選手権自転車競技大会BMX競技が開催された。

当日は競輪選手のみでなく、BMX連盟所属選手によりエキシビジョンレースも行われ、最後には競輪選手vs BMX連盟所属選手によるアルティメットマッチも行われた。

メインイベントの全プロBMXは、大阪の古性優作が連覇を重ねた。

【競技結果】

第61回全日本プロ選手権自転車競技大会
BMX 競技
(2014/10/4 静岡・日本サイクルスポーツセンター)

BMX

- 1 古性 優作 大阪
- 2 山本 巨樹 大阪
- 3 滝川 秀嗣 愛知



新しい翼で、世界の空へ。

member of one world



JAPAN AIRLINES

サイクルサッカー交流試合ジャパンカップ

ドイツU19 チーム来日、ジャパンカップは日本勢が1位2位を獲得

9月18～24日、ドイツから室内自転車競技のU19代表チームが来日し、合宿は今年度のサイクルサッカー日本代表、村上裕亮・岡嶋紘次の出身校である関西大学を拠点にして行われた。

20日・21日には、サイクルサッカー交流試合のジャパンカップが行われた。数年前まではドイツの高校生に歯が立たなかった日本勢だが、今回は1位2位と健闘。順位決定戦が近づくにつれドイツチームには緊張感が走り、日本勢の成長を窺わせた。一方サイクルフィギュアにおいては、昨年と同じくリサ・レナーコーチが来日。滋賀のクラブチーム“ブルーレイクエンジェル”の合宿参加人数は年々増しており、競技の定着を感じさせる。

また、この期間中にU19代表チーム

は、神戸市内の小学校と奈良の養護学校を訪問。高度なパフォーマンスを披露して、観客を魅了した。強行スケジュールだったにも関わらず、彼らの礼儀正しさとフレンドリーな姿は印象的だった。電動車椅子サッカーとサイクルサッカーの対決は初の試みで、プロモーションの新たな可能性を見たように思う。大変に盛り上がったことは言うまでもない。

11月にはいよいよ世界選手権が控えている。今回チームを率いて来日したマルコ・ロスマン氏は、サイクルサッカードイツ代表としてAリーグに出場する。日本はBリーグスタートだが、より高みを目指す構えだ。サイクルフィギュア留学中の芝山にも期待したい。

(阪本 博美)



【競技結果】

サイクルサッカー・ジャパンカップ

(2014/9/20-21 大阪・関西大学)

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1 VfH 東京 1 | 木下直也・松田鋼 |
| 2 蔵前 | 藤田洋介・時倉宗大 |
| 3 RV E.Bonlanden | Mike Bühler/Cedric Wolfer |
| 4 RSV 大阪 1 | 村上裕亮・岡嶋紘次 |
| 5 RSV Öflingen | Joshua Eckert/Robin Leber |
| 6 RWV Wanderlust | Till Wehner/Lars Meierle |

2016 アジア選手権 日本で開催!



2016年1月に日本でアジア選手権が開催される事になった。正式には、第36回アジア自転車競技選手権大会、第23回アジアジュニア自転車競技選手権大会、第4回アジア・パラサイクリング自転車競技選手権大会の3大会で、ロードレースが東京都大島町、トラックレースが静岡県・伊豆ベロドロームで行われる予定。

記者会見では選手代表として、トラックの中川選手、ロードの坂口選手が参加し、両選手ともぜひ同大会で活躍したいとの意気込みを見せた。

2014 室内自転車世界選手権大会 日本代表選手団

大会名 2014 室内自転車世界選手権大会

開催場所 チェコ共和国・ボドバ

大会期間 2014年11月21日～23日

派遣期間 2014年11月15日～25日

代表選手団

監督選手 時倉 宗大(神奈川・蔵前 サイクルサッカー)

コーチ Koch Mihoko(日本室内自転車競技連盟強化コーチ)

コーチ総務 阪本 博美(日本室内自転車競技連盟強化コーチ)

選手 村上 裕亮(大阪・RSV Osaka サイクルサッカー)

藤田 洋介(東京・蔵前 サイクルサッカー)

岡嶋 紘次(大阪・RSV Osaka サイクルサッカー)

芝山 耕輔

(ドイツ在住・TSG Sonnenberg サイクルフィギュア)

佐藤 凧沙(京都・京都産業大学 サイクルフィギュア)

今こそ資源の有効利用を

創業111年の歴史

原材料再生のエキスパート

24時間対応の柔軟な受入体制

110⁺
Anniversary since 1902

東港金属

<http://www.tokometal.co.jp/>

競技大会結果

大会名、チーム名については略して記載

ツル・ド・北海道

(2014/9/13-15 北海道・道東)

第1ステージ (194km)

1	MALAGUTI Alessandro VFN	4:34:42
2	内間 康平 BGT	4:34:42
3	PRETE Joshua BFL	4:34:42
4	黒枝 士揮 VFN	4:35:01
5	STACCHIOTTI Riccardo VFN	4:35:01
6	DE NEGRI Pier Paolo VFN	4:35:01

第2ステージ (183km)

1	LEMUS DAVILA Luis JBC	4:01:05
2	窪木 一茂 UKO	4:01:06
3	寺崎 武郎 BGT	4:01:06
4	STACCHIOTTI Riccardo VFN	4:01:06
5	木村 圭佑 SMN	4:01:06
6	早川 朋宏 AIS	4:01:06

第3ステージ (166km)

1	SEO Joon yong KSP	3:39:24
2	DE NEGRI Pier Paolo VFN	3:39:24
3	YANG Wu Hsing TGT	3:39:24
4	窪木 一茂 UKO	3:39:24
5	KIM Hyeon seok KSP	3:39:24
6	PRADES REVERTER Eduard MTR	3:39:24

個人総合成績

1	PRETE Joshua BFL	12:15:08
2	MALAGUTI Alessandro VFN	12:15:10
3	内間 康平 BGT	12:15:17
4	窪木 一茂 UKO	12:15:22
5	LEMUS DAVILA Luis JBC	12:15:25
6	SEO Joon yong KSP	12:15:29

チーム総合成績

1	VINI FANTINI NIPPO	36:46:35
2	BUDGET FORKLIFTS	36:46:35
3	BRIDGESTONE ANCHOR	36:46:40

第3回 JBCF シニア1-ロードチャンピオンシップ (2014/9/20 広島・森林公園)

Yクラス (49.2km)

1	岡崎 陸登 松山聖陵高等学校	1:20:15
2	平林 楓輝 松山聖陵高等学校	
3	蠣崎 優仁 EQADS	+0:01

日本スノーマスターズ 2014

埼玉大会・自転車競技

(2014/9/20-21 埼玉・大宮双輪場)

男子リット 1部

1	長沢 和幸 埼玉
2	武井 秀周 長野
3	森 俊文 愛知

男子リット 2部

1	亀山 尊仁 神奈川
2	荒上 光亮 福岡
3	渋谷 明 群馬

男子リット 3部

1	松島 伸安 群馬
2	高橋 文仁 大分
3	佐藤 幸博 岩手

男子リット 4部

1	古本 清文 富山
2	等々力公英 長野
3	平石 功 栃木

男子リット 5部

1	越猪 澄 愛知
2	坂寄 昌弘 栃木
3	野崎 年男 埼玉

男子リット 6部

1	若杉 平雄 愛知
2	豊田 英久 静岡
3	藤野 雅弘 千葉

女子リット

1	濱田 真子 東京
2	若月 昌枝 神奈川
3	高瀬 英子 群馬

500m タイムトライアル 女子

1	和地 恵美 神奈川	40.474
2	若月 昌枝 神奈川	42.660
3	小沼美由紀 埼玉	42.795

1km タイムトライアル 1部

1	松岡 亮 兵庫	1:16.612
2	小倉 教之 大分	1:17.782
3	太田 明宏 静岡	1:18.142

1km タイムトライアル 2部

1	松本 貞行 京都	1:12.889
2	渋谷 明 群馬	1:14.431
3	武田 秀明 長野	1:14.546

1km タイムトライアル 3部

1	羽田野隆彦 東京	1:12.763
2	上野 重信 香川	1:13.214
3	山本 哲也 静岡	1:14.182

1km タイムトライアル 4部

1	矢野 賢児 高知	1:11.978
2	高橋 秀樹 東京	1:12.015
3	平石 功 栃木	1:13.147

1km タイムトライアル 5部

1	田中 謙治 山口	1:18.113
2	吉川 伸 奈良	1:21.907
3	野崎 年男 埼玉	1:21.959

1km タイムトライアル 6部

1	伊藤 茂 広島	1:20.643
2	小田 秀明 静岡	1:20.912
3	渡辺 正彦 埼玉	1:22.373

2km 個人追抜競走 女子

1	小沼美由紀 埼玉	2:48.497
2	和地 恵美 神奈川	2:51.076
3	濱田 真子 東京	2:56.630

3km 個人追抜競走 1部

1	高橋 匡司 静岡	3:53.702
2	松岡 亮 兵庫	3:59.776
3	小倉 教之 大分	4:11.309

3km 個人追抜競走 2部

1	山田 哲治 高知	3:54.001
2	上田 伸也 富山	4:10.604
3	山口 智哉 香川	4:15.081

3km 個人追抜競走 3部

1	藤田 晃三 岩手	3:46.813
2	山本 哲也 静岡	4:02.575
3	上野 重信 香川	4:04.776

3km 個人追抜競走 4部

1	矢野 賢児 高知	3:49.431
2	安東 秀倫 岡山	3:56.530
3	五味 実 千葉	4:02.445

3km 個人追抜競走 5部

1	田中 謙治 山口	4:05.168
2	吉川 伸 奈良	4:11.687
3	川岸 弘昌 富山	4:20.166

3km 個人追抜競走 6部

1	高橋 秀樹 静岡	4:09.344
2	小田 秀明 静岡	4:09.420
3	渡辺 正彦 埼玉	4:11.759

ケリ 1部

1	森 俊文 愛知
2	長沢 和幸 埼玉
3	武井 秀周 長野

ケリ 2部

1	亀山 尊仁 神奈川
2	西尾 孝政 埼玉
3	荒上 光亮 福岡

ケリ 3部

1	市川 英昭 神奈川
2	布施 義憲 東京
3	佐藤 研一 神奈川

ケリ 4部

1	等々力公英 長野
2	青沼 洋山 梨
3	山田 宏 新潟

ケリ 5部

1	越猪 澄 愛知
2	坂寄 昌弘 栃木
3	町島 洋一 福島

ケリ 6部

1	若杉 平雄 愛知
2	中村 仁 東京
3	佐藤 哲 愛知

16km ポイントレース 1～2部

1	松本 貞行 京都	33p
2	山田 哲治 高知	27p
3	高橋 匡司 静岡	16p

10km ポイントレース 3～6部

1	藤田 晃三 岩手	23p
2	羽田野隆彦 東京	17p
3	清水 剛 大分	6p

チームリット

1	TKG 松島・古本・矢野	52.353
2	湘南愛輪会A 土谷・亀山・市川	52.644
3	長野車連 武井・武田・等々力	54.082

JCF ジャパンリット J1 XCO 白馬大会 (2014/9/20-21 長野・白馬)

男子リット (33.6km)

1	平野 星矢 長野 BSアンカ	1:31:26.88
2	小野寺 健 北海道 MIYATA	1:31:40.77
3	齊藤 亮 長野 BSアンカ	1:32:11.50

女子リット (24.0km)

1	小林可奈子 長野 Azumino	1:22:07.52
2	中込由香里 長野 SY-Nak	1:23:31.53
3	相野田静香 長野	1:27:24.89

2014JBMXF シリーズ第5戦
(2014/9/21 広島・安芸高田)
リト

- 1 三瓶 将廣 神奈川県 BMX 協会
- 2 吉井 康平 秩父 BMX 協会
- 3 吉村樹希敬 関西 BMX 競技連盟

第48回 JBCF 経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ (2014/9/21 広島・森林公園)
P1 クラス (159.9km)

- 1 内間 康平 ブリヂストーンアンカー 4:04:44
- 2 入部正太郎 シムレーシング
- 3 畑中 勇介 シムレーシング +0:15
- 4 イワードブラス マトリックスパーク +0:16
- 5 ルバトマ ブリヂストーンアンカー +0:16
- 6 ガルシアリカルト チーム右京

第3回 JBCF 女子チャンピオンシップ
(2014/9/21 広島・森林公園)
F クラス (61.5km)

- 1 吉川 美穂 Team ASAHI 1:56:55
- 2 西 加南子 LUMINALIA
- 3 智野 真央 NEILPRYDE +0:01

ジャパンシリーズ J1DHI ウイングヒルズ白鳥リポート
(2014/9/26-27 岐阜・白鳥リポート)
女子リト

- 1 末政 実緒 兵庫 DIRTfreak 3:31.648
- 2 中村 美佳 福井 MTB Park 3:53.366
- 3 中川 綾子 兵庫 YRS 3:54.325

男子リト

- 1 井本はじめ 千葉 LoveBikes 3:03.586
- 2 清水 一輝 愛知 Madison 3:04.697
- 3 九島 勇気 神奈川 玄武 3:05.941

第1回 JBCF 南魚沼サイクルロードレース
(2014/9/28 新潟・南魚沼)
P1 クラス (122km)

- 1 イワードブラス マトリックスパーク 3:14:28
- 2 柳田ノブユキ TeamUKYO +0:08
- 3 アンジェンブラス マトリックスパーク +0:21
- 4 窪木 一茂 TeamUKYO +0:29
- 5 入部正太郎 シムレーシング +0:36
- 6 武末 真和 日チャスレーシングチーム +0:36

F クラス (38km)

- 1 智野 真央 NEILPRYDE 1:14:20
- 2 櫻木 祥子 駒澤大学自転車部 +0:09
- 3 針谷千紗子 Live GARDEN +0:17

第18回 JBCF いわきクリテリウム
(2014/10/4-5 福島・いわき)
P1 クラス (55.42km)

- 1 窪木 一茂 Team UKYO 1:18:34
- 2 鈴木 譲 宇都宮ブリック +0:10
- 3 大久保 陣 宇都宮ブリック
- 4 中村龍太郎 イナメ信濃山形
- 5 桃比 センテ Team UKYO +0:11
- 6 ガルシアリカルト Team UKYO

F クラス (25.83km)

- 1 智野 真央 NEILPRYDE 45:23
- 2 西 加南子 LUMINARIA +0:01
- 3 伊藤 杏菜 Champion System +0:01

2014ACCトラックアジアカップタイラウンド
(2014/10/10-12 タイ・スパンブリ)
Men Elite SPRINT

- 1 雨谷 一樹 JPCA JPCU 栃木
- 2 坂本 貴史 JPCA JPCU 青森
- 3 SAHROM Muhammad Shah Firdaus MAS

Men Elite KEIRIN

- 1 VORZHEV Pavel KAZ
- 2 坂本 貴史 JPCA JPCU 青森
- 3 SULTANOV Zaki KAZ
- 7 雨谷 一樹 JPCA JPCU 栃木

Men Elite OMNIUM

- 1 倉林 巧和 群馬 日体大大学院 280p
- 2 LEUNG Chun Wing HKG 257p
- 3 原田 裕成 岡山 鹿屋体育大学 201p

Men Elite POINTS RACE

- 1 TUYCHIEV Vladimir UZB 71p
- 2 倉林 巧和 群馬 日体大大学院 66p
- 3 GAINEYEV Robert KAZ 66p
- 5 原田 裕成 岡山 鹿屋体育大学 36p

Women Elite SPRINT

- 1 前田佳代乃 京都
- 2 小林 優香 JPCA JPCU 福岡
- 3 MENG Zhaojuan HKG

Women Elite KEIRIN

- 1 前田佳代乃 京都
- 2 MENG Zhaojuan HKG
- 3 SOMNET Jupha MAS
- 4 小林 優香 JPCA JPCU 福岡

Women Elite 500m TIME TRIAL

- 1 前田佳代乃 京都 36.939
- 2 MENG Zhaojuan HKG 38.258
- 3 Deborah IND 38.288

Women Elite TEAM SPRINT

- 1 日本 前田・小林 48.432
- 2 INDIA 50.213

Women Elite OMNIUM

- 1 YANG Qianyu HKG 246p
- 2 SOMNET Jupha MAS 233p
- 3 小島 蓉子 千葉 日体大大学院 221p

Women Elite POINTS RACE

- 1 YURAITIS Yekaterina KAZ 31p
- 2 LEUNG Bo Yee HKG 26p
- 3 SOMNET Jupha MAS 19p
- 4 小島 蓉子 千葉 日体大大学院 19p

UCI クロスカントリー マラソンシリーズ
(2014/10/11 マレーシア・ランカウイ)
Men Elite (75km)

- 1 GENZE Hannes GER 3:03:10.90
- 2 PLATT Karl GER 3:05:11.10
- 3 LAMI Michal SVK 3:15:32.50
- 6 斎藤 亮 長野 BS アンカー 3:20:48.10
- 12 平野 星矢 長野 BS アンカー 3:29:44.20
- 26 山田 誉史輝 長野 ダートトラック 3:53:52.30

ジャパンシリーズ J1DHI/XCO 富士見パノラマ大会
(2014/10/11-13 長野・富士見パノラマリポート)
DHI 男子リト

- 1 清水 一輝 愛知 Madison 2:08.278
- 2 加藤 将来 愛知 LoveBikes 2:10.675
- 3 井本はじめ 兵庫 LoveBikes 2:12.176

DHI 女子リト

- 1 末政 実緒 兵庫 DIRTfreak 2:31.520
- 2 九島あかね 神奈川 玄武 2:36.760
- 3 中村 美佳 福井 MTB Park 2:40.328

XCO 男子リト (28.3km)

- 1 門田 基志 愛媛 GIANT 1:28:40
- 2 平林 安里 長野 Westberg 1:28:55
- 3 小野寺 健 北海道 MIYATA 1:29:35

XCO 女子リト (17.2km)

- 1 中込由香里 長野 SY-Nak 1:11:49
- 2 小林可奈子 長野 Azumino 1:13:49
- 3 中島 峻歩 山梨 SY-Nak 1:15:04

第7回 JBCF 輪島ロードレース
(2014/10/12 石川・輪島)
P1 クラス (88.6km)

- 1 アイラン フェルデス マトリックスパーク 2:37:41
- 2 木村 圭佑 シムレーシング
- 3 森本 誠 イナメ信濃山形
- 4 アンジェンブラス マトリックスパーク +0:41
- 5 入部正太郎 シムレーシング +0:53
- 6 イワードブラス マトリックスパーク

F クラス (25.6km)

- 1 智野 真央 NEILPRYDE 55:49
- 2 棟近 陽子 EURO-WORKS Racing
- 3 高田 由貴 ZIPPY CYCLE C. 55:50

ジャパンシリーズトライアル #3 広島大会
(2014/10/12 広島・三次)
ELITE 20

- 1 寺井 一希 埼玉 チームハリケン 19
- 2 甘利 大斗 長野 トライアルチーム輪道 57
- 3 山田 喜靖 長野 70

ELITE 26

- 1 飯塚 隆太 東京 GOLDRUSH 34
- 2 西窪 友海 和歌山 GOLDRUSH 41
- 3 藤原 涼平 広島 関輪会 68

JUNIOR

- 1 坪井 大地 宮城 GOLDRUSH 12
- 2 橋本 茂樹 福岡 SUGOSUNE 36
- 3 森 海盛 熊本 イッケイバイクワークス 39

WOMEN

- 1 小川 菜花 長崎 ZIP_RACING 13
- 2 水野 真美 大阪 関西大学 19
- 3 寺曾 芹奈 広島 TEAM TERASO 51

ロードウインドトラック国際マラソンパノラマ大会 2014
(2014/10/13-18 マレーシア・ランカウイ)
Men Elite
Prologue ITT (2.4km)

- 1 ROHRBACH Nicola SUI 4:53.40
- 2 CARTENSEN Sebastian Fini DEN 4:53.60
- 3 LAMI Michal SVK 4:56.00
- 6 山本 幸平 Specialized 4:57.20
- 30 斎藤 亮 長野 BS アンカー 5:22.40
- 31 平野 星矢 長野 BS アンカー 5:23.00
- 46 山田 誉史輝 長野 ダートトラック 5:45.40

Stage1 XCM (65km)

- 1 PLATT Karl GER 2:22:56.00
- 2 LAMI Michal SVK 2:22:56.70
- 3 KIRILL Kazantsev KAZ 2:25:17.00
- 6 山本 幸平 Specialized 2:26:51.10

- 11 斎藤 亮 長野 BS アンカー 2:29:20.10
- 26 平野 星矢 長野 BS アンカー 2:43:37.40
- 34 山田誉史輝 長野 ダートトラック2:47:29.50

Stage2 XCP (38km)

- 1 PLATT Karl GER 1:49:22.70
- 2 LAMI Michal SVK 1:50:32.40
- 3 GIGER Fabian SUI 1:51:32.00
- 12 山本 幸平 Specialized 1:57:11.50
- 14 斎藤 亮 長野 BS アンカー 1:58:20.60
- 24 平野 星矢 長野 BS アンカー 2:06:51.10
- 31 山田誉史輝 長野 ダートトラック2:14:28.00

Stage3 XCM (60km)

- 1 GIGER Fabian SUI 3:14:21.70
- 2 LAMI Michal SVK 3:15:35.10
- 3 PLATT Karl GER 3:15:36.30
- 4 山本 幸平 Specialized 3:17:28.40
- 14 平野 星矢 長野 BS アンカー 3:28:34.60
- 25 斎藤 亮 長野 BS アンカー 3:40:07.90
- 30 山田誉史輝 長野 ダートトラック3:45:59.20

Stage4 XCO (24.6km)

- 1 GIGER Fabian SUI 1:11:14.40
- 2 LAMI Michal SVK 1:11:18.30
- 3 CARTENSEN Sebastian Fini DEN 1:12:25.60
- 6 山本 幸平 Specialized 1:13:50.10
- 18 斎藤 亮 長野 BS アンカー 1:17:58.30
- 33 平野 星矢 長野 BS アンカー 1:27:08.00
- 38 山田誉史輝 長野 ダートトラック1:30:08.00

Stage5 XCC (14.3km)

- 1 CARTENSEN Sebastian Fini DEN 28:11.70
- 2 RASMUSSEN Neils Bech DEN 28:13.40
- 3 BENDIXEN Louis DEN 28:13.80
- 5 山本 幸平 Specialized 28:16.50
- 22 斎藤 亮 長野 BS アンカー 35:04.90
- 30 平野 星矢 長野 BS アンカー 43:04.90
- 65 山田誉史輝 長野 ダートトラック 49:04.90

総合成績

- 1 LAMI Michal SVK 9:14:19.50
- 2 PLATT Karl GER 9:14:54.30
- 3 GIGER Fabian SUI 9:17:13.00
- 5 山本 幸平 Specialized 9:28:34.80
- 15 斎藤 亮 長野 BS アンカー 10:06:14.20
- 23 平野 星矢 長野 BS アンカー 10:34:39.00
- 31 山田誉史輝 長野 ダートトラック11:12:55.00

ジパングシリーズ in 石川 DHI/XCO (2014/10/24-26 石川・白山一里野温泉&場)

男子エリート (29.4km)

- 1 小野寺 健 北海道 MIYATA 1:16:25
- 2 斎藤 亮 長野 BS Anchor 1:16:48
- 3 平林 安里 長野 Westberg 1:17:13

女子エリート (21.0km)

- 1 中込由香里 長野 SY-Nak 1:09:30
- 2 小林可奈子 長野 AZUMINO 1:10:09
- 3 相野田静香 長野 LITEC Fact.1:14:12

第10回全国ジュニア自転車競技大会 (2014/10/26 三重・四日市)

A-1 高校生男子 (108.0km)

- 1 富尾 大地 鹿児島 南大隅 2:44:42.884
- 2 水谷 翔 鹿児島 南大隅 2:45:20.333
- 3 草場 啓吾 京都 北桑田 2:45:21.207
- 4 小山 貴大 群馬 前橋高 2:45:23.771
- 5 中川 拳 北海道 三条高 2:45:24.183
- 6 野本 空 愛媛 松山工 2:45:24.525

A-2 高校生男子 (54.0km)

- 1 川邊 庸介 三重 暁高 1:26:18.469
- 2 和田 樹 岐阜 岐南工 1:26:19.113
- 3 武田 悠佑 京都 北桑田 1:26:19.840
- 4 赤堀 健太 岐阜 岐南工 1:26:20.879
- 5 小林 宣基 三重 暁高 1:26:21.030
- 6 西村 豊紀 京都 北稜高 1:26:21.219

A-3 高校生女子 (36.0km)

- 1 梶原 悠未 埼玉 筑坂戸 1:02:48.004
- 2 三浦 涼香 愛知 桜花学 1:05:52.458
- 3 寺田 有希 愛知 日進西 1:06:09.514

第4回 JBCF 知多半島・美浜クリカム (2014/10/26 愛知・美浜)

P1 クラス (75.0km)

- 1 阿部 嵩之 宇都宮ブリッツェン 1:38:53
- 2 バンブニシ デスマトリックスワークス
- 3 入部正太郎 シマルレーシング
- 4 紺野 元汰 イーメ信濃山形
- 5 鈴木 真理 宇都宮ブリッツェン
- 6 遠藤 績穂 CROPS

F クラス (25.6km)

- 1 智野 真央 NEILPRYDE 38:02
- 2 伊藤 杏菜 Champion System Japan
- 3 二口 早紀 パルバレシングクラブ

第20回アジアマウンテンバイク選手権大会 第6回ジュニア・アジアマウンテンバイク選手権大会 (2014/11/1-2 インドネシア)

XCR

- 1 中国 1:12:37
- 2 日本 1:14:23
- 3 インドネシア 1:14:41

DHI Men Elite (1.5km)

- 1 SUKCHANYA Suebsakun THA 2:27.38
- 2 清水 一輝 愛知 Madison 2:28.85
- 3 FARR John Derick PHI 2:29.12

DHI Women Elite (1.5km)

- 1 末政 実緒 兵庫 Unior Tools 3:00.59
- 2 PURWANINGSIH Nining INA 3:17.77
- 3 DEEKABALLEE Vipavee THA 3:18.55

XCO Men Elite (26.16km)

- 1 山本 幸平 北海道 Specialized 1:28:17
- 2 平野 星矢 長野 ブリヂストーン 1:30:05
- 3 武井 亨介 茨城 チームフォルツァ! 1:32:29
- 4 斎藤 亮 長野 ブリヂストーン 1:33:22
- 7 沢田 時 滋賀 ブリヂストーン 1:34:34

XCO Women Elite (21.9km)

- 1 SHI, Qinglan CHN 1:27:21
- 2 REN, Chengyuan CHN 1:33:41
- 3 YANG, Ling CHN 1:36:17
- 4 與那嶺憲理 茨城 サカハノク FX 1:39:36
- 5 末政 実緒 兵庫 Unior Tools 1:42:09

XCO Men Junior (17.64km)

- 1 平林 安里 長野 白馬高校 1:06:17
- 2 GU Bingcheng CHN 1:08:30
- 3 山田 将輝 長野 Limited846 1:11:23

XCO Women Junior (13.38km)

- 1 PHETPRAPHAN Warinorn THA 1:04:35
- 2 中島 峻歩 山梨 北杜高校 1:05:39
- 3 DORMITORIO Ariana PHI 1:07:50

第1回 JBCF おおいたいこいの道クリカム (2014/11/3 大分・JR大分駅前)

P1 クラス (33km)

- 1 プレミアムエリート マトリックスワークス 41:13
- 2 鈴木 謙 宇都宮ブリッツェン
- 3 プレミアムエリート マトリックスワークス
- 4 ロックテリアック Team JBCF
- 5 畑中 勇介 シマルレーシング
- 6 大久保 陣 宇都宮ブリッツェン

連盟の動き (9月中旬～11月中旬)

- 9月16日 平成26年度第2回理事会 於：東京・自転車総合ビル 6階会議室
- 18日 2014ロード世界選手権日本代表選手団出発 於：スペイン・ボンフェラーダ 帰国→9/30
- 10月3日 第1回2016年アジア選手権実行委員会 於：東京・自転車総合ビル 6階会議室
- 8日 2014ACCトラックアジアカップ代表選手団出発 於：タイ・スパンブリー 帰国→10/13
- 15日 平成26年度第2回アンチ・ドーピング委員会 於：東京・自転車総合ビル 6階会議室
- 27日 第5回トラック中距離強化合宿 於：静岡・伊豆ペドロローム (~10/31)
- 28日 2014アジアMTB選手権日本代表選手団出発 於：インドネシア 帰国→11/4
- 11月1日 トラックワールドカップ日本代表選手団出発 於：メキシコ・グアダハラ 帰国→11/11
- 5日 2014アジアBMX選手権日本代表選手団出発 於：インドネシア 帰国→11/10
- 14日 平成26年度第4回広報部会 於：東京・自転車総合ビル 6階会議室

2014年ロード世界選手権大会 日本代表選手団

大会名 2014年ロード世界選手権大会
開催場所 スペイン・ポンフェラーダ
大会期間 2014年9月22日～28日
派遣期間 2014年9月18日～30日
代表選手団

監督 浅田 颯 (選手強化コーチ)
コーチ 柿木 孝之 (選手強化コーチ)
橋川 健 (ロード競技部会コーチ)
メカニック 大西 恵太 (選手強化支援スタッフ)
中村 仁 (選手強化支援スタッフ)
マッサー 宮島 正典 (選手強化支援スタッフ)
穴田 悠吾 (選手強化支援スタッフ)

選手

男子エリート 新城 幸也 (チームヨーロッパカー)
土井 雪広 (山形・チーム右京)
清水 都貴 (JPCA・プリチストン
アンカーサイクリングチーム)
女子エリート 萩原麻由子 (群馬・ウィグル・ホンダ)
與那嶺恵理 (茨城・サクソバンクFX証券)
男子ジュニア 石上 優大 (神奈川・横浜高校)
孫崎 大樹 (京都・北桑田高校)
中村 圭佑 (東京・昭和一学園高校)
草場 啓吾 (京都・北桑田高校)
女子ジュニア 坂口 聖香 (兵庫・日本体育大学)
梶原 悠未
(埼玉・筑波大学附属坂戸高校)

2014年ACCトラックアジアカップ タイラウンド日本代表選手団

大会名 2014年ACCトラックアジアカップ・タイラウンド
開催場所 タイ・スパンブリー
開催期間 2014年10月10日～12日
派遣期間 2014年10月8日～13日
代表選手団

監督 坂本 勉 (短距離ヘッドコーチ)
コーチ 飯島 誠 (中距離ヘッドコーチ)
メカニック 森 昭雄 (選手強化支援スタッフ)
マッサー 奥隅 信幸 (選手強化支援スタッフ)
スタッフ 村田 正洋 (専任情報・科学スタッフ)
選手 坂本 貴史 (JPCA・JPCU 青森)
雨谷 一樹 (JPCA・JPCU 栃木)
前田佳代乃 (京都)
小林 優香 (JPCA・JPCU 福岡)
原田 裕成 (岡山・鹿屋体育大学)
倉林 巧和 (群馬・日本体育大学大学院)
小島 蓉子 (千葉・日本体育大学大学院)

ジャパンカップサイクルロードレース 日本代表選手団

大会名 2014年ジャパンカップサイクルロードレース
2014年ジャパンカップ・クリテリウム

開催場所 栃木県・宇都宮市森林公園
大会期間 2014年10月18日～19日
派遣期間 2014年10月17日～19日
代表選手団

監督 浅田 颯 (JCFロードコーチ)
メカニック 高橋 優平 (強化支援スタッフ)
マッサー 井上 良輝 (強化支援スタッフ)
選手 佐野 淳哉 (栃木・那須フラーゼン)
徳田 優 (京都・鹿屋体育大学)
徳田 鍛造 (鹿児島・鹿屋体育大学)
岡 篤志 (茨城・EQA U23)
内野 直也 (埼玉・EQA U23)

2014年アジア・マウンテンバイク 選手権大会 日本代表選手団

大会名 第20回アジアマウンテンバイク選手権大会
第6回アジア・ジュニアマウンテンバイク選手権大会

開催場所 インドネシア・Lubuk Linggau South Sumatra
大会期間 2014年11月1日～2日
派遣期間 2014年10月28日～11月4日
代表選手団

監督 鈴木 雷太 (長野・連盟強化スタッフ)
技術スタッフ 山路 篤 (神奈川・連盟強化スタッフ)
仁木 康夫 (大阪・連盟強化スタッフ)
マッサー 軽部 修子 (神奈川・オフィス軽部)
選手 ダウンヒル

男子エリート 清水 一輝 (愛知・MADISON
SARACEN FACTORY TEAM)

女子エリート 未政 実緒 (兵庫・Unior Tools LITEC)
クロスカントリー

男子エリート 沢田 時 (滋賀・プリチストンサイクル)
武井 亨介 (茨城・チーム・フォルツァ!)
斉藤 亮 (長野・プリチストンサイクル)
山本 幸平

(北海道・SPECIALIZED BICYCLE COMPONENTS)

平野 星矢 (長野・プリチストンサイクル)

女子エリート 與那嶺恵理 (茨城・サクソバンクFX証券)
未政 実緒 (兵庫・Unior Tools LITEC)

男子ジュニア 山田 将輝
(長野・Limited846/DIRTFREAK)

平林 安里 (長野・長野県白馬高等学校)

女子ジュニア 中島 峻歩 (山梨・山梨県立北杜高校)

ロードU23欧州強化合宿遠征 日本代表選手団

派遣期間 2014年9月1日～16日

開催場所 フランス/スペイン

代表選手団

スタッフ 浅田 颯 (JCFロード競技部会員)
選手 宮澤崇史 (JPCA・Vini Fantini-NIPPO-De Rosa)
小石祐馬 (京都・Vini Fantini-NIPPO-De Rosa)
岡 篤志 (茨城・EQA U23)
石橋 学 (青森・鹿屋体育大学)
清水太己 (東京・EQA U23)
内野直也 (埼玉・EQA U23)
面手利輝 (神奈川・EQA U23)

2014-2015 UCIトラックワールド カップ第1戦 日本代表選手団

大会名 2014-2015UCIトラックワールドカップ第1戦
開催場所 メキシコ・グアダハラ

大会期間 2014年11月7日～9日

派遣期間 2014年11月1日～11日

代表選手団

監督 坂本 勉 (短距離ヘッドコーチ)
コーチ 飯島 誠 (中距離ヘッドコーチ)
メカニック 森 昭雄 (強化支援スタッフ)
鬼原 積 (強化支援スタッフ)
高橋 優平 (強化支援スタッフ)
マッサー 柳 浩史 (強化支援スタッフ)
奥隅 信幸 (強化支援スタッフ)
井上 良輝 (強化支援スタッフ)

スタッフ 村田 正洋 (情報・科学スタッフ)
ドクター 金井 貴夫 (医学部会員)

選手 中川誠一郎 (JPCA・JPCU 熊本)

渡邊 一成 (JPCA・JPCU 福島)

雨谷 一樹 (JPCA・JPCU 栃木)

河端 朋之 (JPCA・JPCU 岡山)*

脇本 雄太 (JPCA・JPCU 福井)*

和田真久留 (JPCA・JPCU 神奈川)*

窪木 一茂

(和歌山・和歌山県庁/チーム右京)

倉林 巧和 (群馬・日本体育大学大学院)

橋本 英也 (岐阜・鹿屋体育大学)

原田 裕成 (岡山・鹿屋体育大学)

前田佳代乃 (京都)*

石井 貴子 (JPCA・JPCU 千葉)*

加瀬加奈子 (JPCA・JPCU 新潟)*

上野みなみ (青森・鹿屋体育大学大学院)

中村 妃智 (千葉・日本体育大学)

小島 蓉子 (千葉・日本体育大学大学院)

※ JPC

2014年アジア BMX 選手権大会 日本代表選手団

大会名 2014アジア BMX 選手権大会

開催場所 インドネシア

大会期間 2014年11月7日～9日

派遣期間 2014年11月5日～10日

代表選手団

マネージャー 三瓶 将廣 (連盟強化スタッフ)

メカニック 光武 正勝 (連盟強化スタッフ)

選手

男子エリート 長迫 吉拓 (岡山・MXインターナショナル)

松下 翼 (神奈川・早稲田大学大学院)

吉村樹希敢 (大阪)

吉井 康平 (東京)

男子ジュニア 池上 悠斗 (大阪)

松村 和真 (大阪)

女子ジュニア 瀬古 遥加 (三重・Groovy Factory Team)

朝比奈綾香 (大阪)



日本新記録 *Japan New Record*

■ スタンディングスタート

・ 4km 団体

男子エリート	4'08"470	日本 (一丸尚伍、窪木一茂、橋本英也、近谷 涼)	2014/09/21	大韓民国・仁川
女子エリート	4'39"723	日本 (中村妃智、上野みなみ、加瀬加奈子、塚越さくら)	2014/09/22	大韓民国・仁川
女子エリート	4'37"897	日本 (中村妃智、上野みなみ、加瀬加奈子、塚越さくら)	2014/09/22	大韓民国・仁川

■ 女子チーム・スプリント

・ 333.33m × 2

女子エリート	45"873	日本 (前田佳代乃、石井貴子)	2014/09/20	大韓民国・仁川
--------	--------	-----------------	------------	---------

今後の大会予定

期 日	大 会 名	種 目	場 所
11月23日	関西シクロクロス マキノ大会 (UCI-2) / セレクションS. #2	CX	滋賀/高島・マキノ高原
11月29日	信州CX野辺山高原ラウンド 1	CX	長野/野辺山
11月30日	信州CX野辺山高原ラウンド 2 (UCI-2) / セレクションS. #3	CX	長野/野辺山
12月5日 ~ 7日	2014 ~ 15 UCIトラックワールドカップ第2戦	TR	イギリス/ロンドン
12月14日	全日本選手権自転車競技大会-シクロクロス	CX	宮城/村田
12月20日 ~ 21日	全日本選手権自転車競技大会-室内自転車競技	Indoor	大阪/ボディメーカーコロシウム
²⁰¹⁵ 1月17日 ~ 18日	2014 ~ 15 UCIトラックワールドカップ第3戦	TR	コロンビア/カリ
1月31日 ~ ² 1日	UCI世界選手権大会-シクロクロス	CX	チェコ/タボール
2月4日 ~ 16日	第35回アジア自転車競技選手権大会	RR/TR	タイ/ナコンラチャシマ
2月4日 ~ 16日	第22回アジア・ジュニア自転車競技選手権大会	RR/TR	タイ/ナコンラチャシマ
2月18日 ~ 22日	2015年UCIトラック世界選手権大会	TR	フランス/パリ
4月5日	第40回チャレンジサイクルロードレース大会	RR	静岡/日本サイクルスポーツセンター
4月11日 ~ 12日	全日本選手権自転車競技大会-トラック	TR	静岡/伊豆ベロドローム
4月11日 ~ 12日	全日本選手権自転車競技大会-パラサイクリング・トラック	PARA	静岡/伊豆ベロドローム
5月2日 ~ 3日	全日本選手権自転車競技大会-トライアル	Trial	佐久/ミレニアムパーク
5月2日 ~ 4日	JCF MTB インターナショナルびわこ高島ステージ	MTB	滋賀/高島

無限の夢へ、走りだそう。

RING!RING!
プロジェクト

競輪の補助事業

地方自治体が開催する競輪の売上金の一部は、モノづくり、スポーツ、地域社会への貢献など、さまざまな分野の事業に役立てられています。

くわしくはウェブで **RING!RING!**

17th Asian Games INCHEON 2014 *Road Races*

<ロードレース>

9月27日(晴)

女子個人タイムトライアル 上野みなみ

1周14km×2周(28km)、10名エントリーの9番スタート。前半はハイペースにならないように走り、後半ペースを上げ勝負に出たが、スタートから思うようにペースを乗せられず、向かい風で失速。9.7km地点で韓国の選手に抜かれ、目標にして粘るが1周目は7位通過。ラスト一周で勝負に出るが、タイム差を詰められないまま7位でゴール。



個人TTの上野

男子個人タイムトライアル 別府史之

1周14km×3周(42km)、20名エントリーで13番スタート。前半を無理せず後半勝負に出る。

1周目はカザフとキリギスが好タイムで通過。3位通過のイランと14秒02のタイム差で2周目に入る。

カザフが他の追従を許さずタイム差を広げる中、キリギス、イラン、日本、韓国、ウズベキの争いとなった。

2周目通過は4位、タイムを上げたものの3位のイランとのタイム差が19秒03と広がる。挽回できないタイム差ではないので、ラスト一周勝負に出るが、向かい風でペースを上げられず、惜しくも4位に終わった。

9月28日(曇)

男子個人ロード 182km(13周)

27ヶ国72名がスタート。スタートからハイペースのレース展開となり、集団が1列棒状のレース展開が始まる。

2周目ゴール手前2kmの細かいクランクでアタック、一列棒状となったところで中切れがあり、宮澤を含む15名の選手が集団から抜け出し、逃げのレース展開となる。

序盤で決まった逃げは主力チームが各1名ずつ入っているため、追走メイン集団のペースは上がらず、タイム差が徐々に広がる。

4周目に入り1分50秒差となり、逃げ切り濃厚となったところで、追走しているメイングループの別府に、後続のアタックには確実に乗るように指示、トップグループの宮澤には、ラストのアタック合戦で遅れないように力を温存し、ゴールスプリントに備えるように指示をする。

中盤逃げグループに大きな動きもなく、終盤ラスト3周目に入り予想していたアタック合戦が始まる。なかなか逃げが決まらないまま、ラスト1周に入る手前の3km地点でMOAZAMI GODARZI Arvin(イラン)がアタック、すぐに反応したJANG Kyunggu(韓国)の二人がトップグループから抜け出し15秒差。

追走グループが牽制状態となり、ラスト10kmで40秒差。ラスト7kmでMOAZAMI GODARZIがJANGを振り切り、単独で逃げる。遅れたJANGは10秒差で追走、ラスト2kmで再び追い付き二人のゴール勝負。JANGが先行しそのままゴールして優勝、2位はMOAZAMI GODARZI。追走グループのゴール勝負を制したのは、ALHAMMADI Wing(ホンコン)で3位。宮澤は残念ながら7位に終わった。メイン集団でゴールした別府は31位。

<本人のコメント>

宮澤崇史:逃げるレース展開は、予想していた通りに乗れたのでよかった、ラスト3周でアタック合戦が始まった状況の中、カザフと組んでアタックしようとしたが、イランと韓国にうまく逃げられてしまい、ゴール勝負は全く駄目だった。

別府史之:予想していた逃げに乗れなかったのが全てで、この結果に終わった。

9月29日(雨)

女子個人ロード 126km(9周)

12ヶ国32名がスタート。雨の中、予想外に早いレース展開となり、近年のアジア女子のレースでは、最もレースらしい展開となった。

序盤からインドネシア、ベトナム、モンゴル、チャイナが積極的にアタックを仕掛け、逃げのレース展開を仕掛けるが、韓国や台湾などスプリンターを要している国が、チェックに入り逃げをつぶす。そういった展開のまま終盤に入り、ラスト3kmで塚越が集団のすきを突いてアタックするも、集団に吸収されそのまま32名の集団ゴール勝負となる。混戦を競り勝ったのは、MANEEPHAN Jutatip(タイ)、2位ベトナム、3位台湾、日本は上野が14位、塚越が22位に終わった。

<本人のコメント>

上野みなみ:逃げのレース展開を作ろうとするアタックに追走。チャンスを窺うも逃げられず、ゴール勝負は全く動けずに終わった。

塚越さくら:ラスト3kmで勝負を仕掛けるも、逃げ切れず集団に吸収され、ゴール勝負はあまりの速さに全く反応できずに、集団後方でゴールした。

(高橋 松吉)

[競技結果]

2014 仁川アジア競技大会(大韓民国・仁川)

[ロードレース] 2014/9/27-29

男子個人タイムトライアル(42km)

1	LUTSENKO Alexey KAZ	50:28.78
2	VAKKER Evgenii KGZ	51:01.69
3	ASKARI Hossein IRI	51:19.77
4	別府 史之 JPCA TRECK	52:08.99

女子個人タイムトライアル(28km)

1	NA Ahreum KOR	37:54.43
2	LI Wenjuan CHN	38:46.26
3	WONG Wan Yiu Jamie HKG	38:57.65
7	上野みなみ 青森 鹿体大学院	40:09.03

男子ロードレース(182km)

1	JANG Kyunggu KOR	4:07:52
2	MOAZAMI GODARZI Arvin IRI	4:07:52
3	LEUNG Chun Wing HKG	4:08:51
7	宮澤 崇史 JPCA Vini Fantini	4:08:51
31	別府 史之 JPCA TRECK	4:17:10

女子ロードレース(126km)

1	MANEEPHAN Jutatip THA	3:39:33
2	NGUYEN Thi That VIE	3:39:33
3	HSIAO Mei Yu TPE	3:39:33
14	上野みなみ 青森 鹿体大学院	3:39:33
22	塚越さくら 鹿児島 鹿体大学院	3:39:33



スタート前の別府（左）と宮澤



メイン集団を引く別府



トップ集団を引く宮澤



塚越



集団の上野と塚越

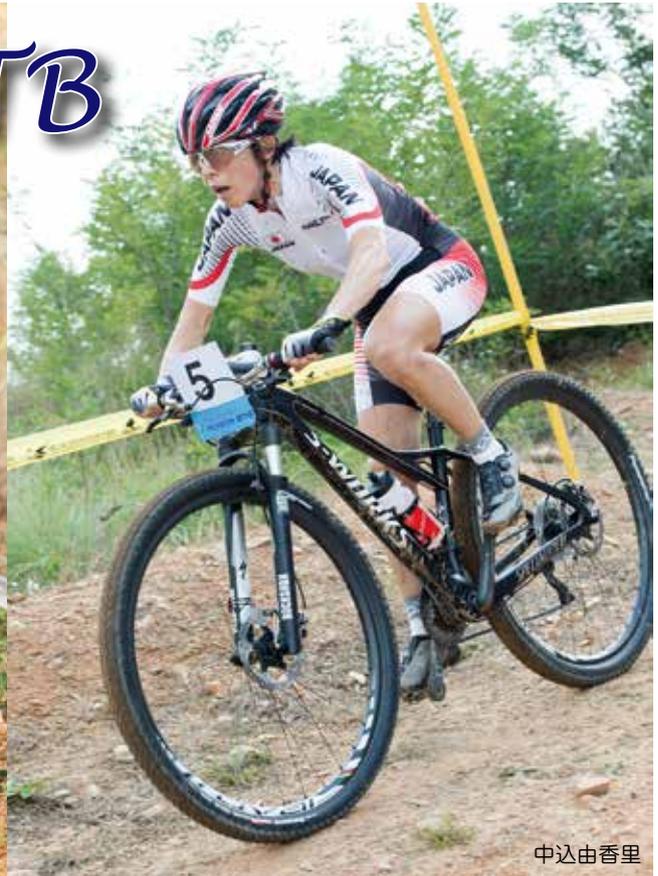


個人TTスタートの別府

MTB



山本幸平



中込由香里

<オフロード>

MTB

男子: 前大会を銀メダルで終えた山本幸平は、UCIランキング11位になる程4年の間で成長し、沢田時もフランスを中心とした海外活動で獲得したUCIポイントで代表選手となった。現地では、本コースにおいてのトレーニングが2日間しか行えず、ロードワークに出てコンディションを整えた。コースはスタートゴールとフィードゾーン以外は全てシングルトラックで、急な登りとスピードの乗りやすい下りのレイアウト。そのため日本チームとして、スタートは先頭で森に入っていき指示をだしてスタートが切られた。

作戦通り山本、沢田の順でシングルトラックへ進入に成功したが、中盤には沢田が遅れ山本、中国、香港、カザフスタンの4名でレースは進み、2周目には山本も少しづつ遅れをとった。全5周で行われたレースは、最終周4位で走行する山本だったが、残り半周でメダル圏内の45秒差を一気にひっくり返し、3位でゴールした。沢田はペースを上げきれず、7位でゴールした。

女子: アジア大会3回目のベテラン、中込由香里1名の派遣となったが、レース当日まで終始落ち着いた様子で、自分のコンディショニングに集中して、

スタートを迎える事が出来た。

6位で最初の森に入って行き、1~3位までの中国2名と韓国がハイペースで進み中、中込の前の選手にコースをふさがれた形になって、1周目で上位3名とは一気に差が開いてしまった。2周目以降3位韓国の選手も遅れ出し、前を確認できないコースながら、タイム差等をはっきりと伝える事でメダルを狙い差を縮めている実感を選手に持ってもらえるように、スタッフ全員でサポートを行った。3周目直前で3位



沢田時

に上がり、その後は差を広げて3位でゴールを切った。

【競技結果】

2014 仁川アジア競技大会 (大韓民国・仁川)

【マウンテンバイク】 2014/09/30

男子マウンテンバイク (27.6km)

- | | | | |
|---|----------------|-----------------|---------|
| 1 | WANG Zhen | CHN | 1:42:34 |
| 2 | CHAN Chun Hing | HKG | 1:43:27 |
| 3 | 山本 幸平 | 北海道 Specialized | 1:44:12 |



- | | | | |
|---|------|--------------|---------|
| 7 | 沢田 時 | 滋賀 BS Anchor | 1:51:20 |
|---|------|--------------|---------|

女子マウンテンバイク (18.4km)

- | | | | |
|---|-------------|-----------|---------|
| 1 | SHI Qinglan | CHN | 1:17:06 |
| 2 | YANG Ling | CHN | 1:23:02 |
| 3 | 中込由香里 | 長野 SY-Nak | 1:30:29 |



BMX

BMX

大会2日前までコーストレーニングが行えず、選手村内でのロードワークとジャパンサポートハウスを活用しコンディショニングを行った。また2日前のコーストレーニングは雨の為に中止となり、前日と当日の短い期間しかコーストレーニングが行えなかった。

男子:1名の派遣となった三瓶将廣は以前も同じコースを走った事があり、スタートゲートのタイミングも上手く合わせられていた。決勝は3ヒートの合計ポイントで争われ、2位、2位、3位でまとめて見事銀メダルに輝いた。

女子:山野本悠里と飯端美樹の2名の派遣となった。

決勝1ヒート目、山野本は1コーナーで攻めた結果の接触もあり、一旦ストップしてしまい8位。2ヒート目は6位、3ヒート目を5位と順当に順位を上げたが、総合6位でレースを終えた。

飯端も6位、7位と進み、3ヒート目に落車してしまい総合7位でレースを終えた。

マウンテンバイクとBMXでメダルを3個獲得した事、また女子のメダルはとても素晴らしい事。4年後は金メダルを目指せるように、組織として戦えるように過ごしていきたい。(鈴木 雷太)



決勝の三瓶(4番)



タイムトライアルの三瓶

【競技結果】

2014 仁川アジア競技大会 (大韓民国・仁川)
[BMX] 2014/10/01

男子 BMX

- | | | |
|---|---------------------------|-----|
| 1 | CALUAG Daniel Patrick PHI | 3p |
| 2 | 三瓶 将廣 神奈川 Systematic BMX | 7p |
| 3 | ZHU Yan CHN | 10p |



女子 BMX

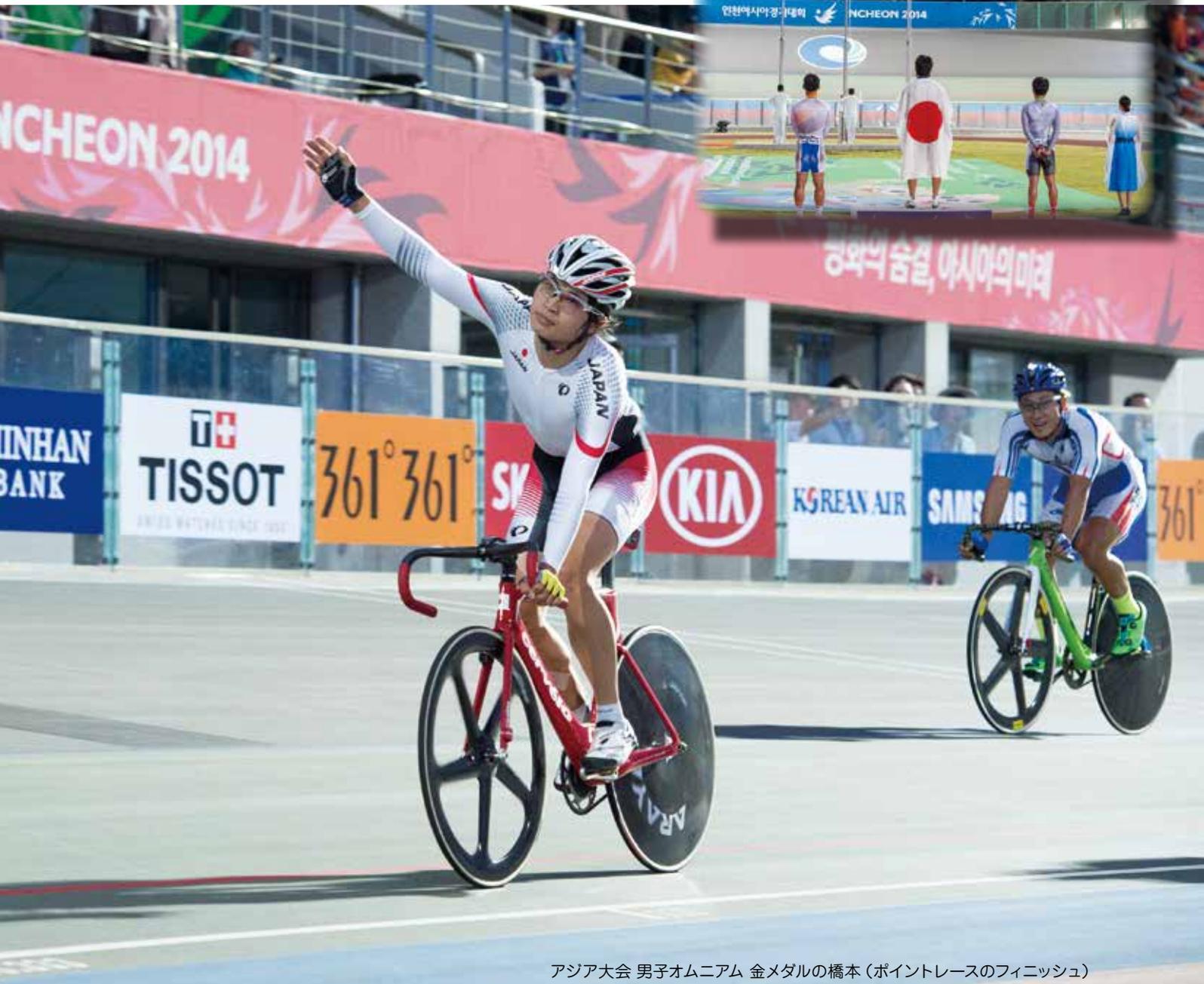
- | | | |
|---|-------------------------|-----|
| 1 | CARR Amanda Mildred THA | 3p |
| 2 | LU Yan CHN | 7p |
| 3 | PENG Na CHN | 9p |
| 6 | 山野本悠里 広島 環太平洋大学 | 19p |
| 7 | 飯端 美樹 大阪 | 21p |



タイムトライアルの山野本



タイムトライアルの飯端



アジア大会 男子オムニウム 金メダルの橋本 (ポイントレースのフィニッシュ)

< JCF オフィシャル・スポンサー >



< オフィシャル・サプライヤー >



シクリスムエコー No.209 2014年10・11月号

発行/公益財団法人 日本自転車競技連盟

発行人/橋本 聖子

編集人/坂井田 米治

編集事務局/公益財団法人 日本自転車競技連盟 事務局

〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-1 自転車総合ビル 5F

TEL 03-6277-2690 FAX 03-6277-2691 <http://www.jcf.or.jp/>

